

フランシスコ関連800周年記念行事

イタリアのアッシジで設立されたフランシスコ会は、1223年に教皇ホノリウス3世から正式に会則が認可され、昨年で800周年を迎えました。1224年、ラ・ヴァーナ山でフランシスコは聖痕を受けました。翌年、彼は万物の創造主である神を讃える詩的な祈り「被造物の讃歌」を作りました。

ここに三澤洋史が自身の作曲・指揮により今回の演奏会を開催させていただきます。

1223年－会則認可、
グレッチオのプレ
ゼピオ

1224年－聖痕の
賜物

1225年－被造物の
讃歌（太陽の賛歌）

1226年－帰天



・プレリュード
Prelude

・イタリア語の三つの祈り
Tre Preghiere in Italiano

1 主の祈り
Padre Nostro

2 聖フランシスコの平和の祈り
Preghiera Semplice

3 アヴェマリア
Ave Maria

・被造物の讃歌（太陽の賛歌）
Cantico delle Creature

・平和のミサ曲（アッシジ版）
Missa pro Pace

アッシジ祝祭合唱団 国内演奏会

主催：アッシジ祝祭合唱団 協賛：フランシスコ会日本管区

2024 6.8 (土)

14:00 開演 カトリック田園調布教会 大聖堂



アッシジ祝祭合唱団 国内演奏会

高校二年生の秋のある日、私はひとりで決心して地元のカトリック教会の門を叩きました。すぐその後、ゼッフィレリ監督の「ブラザーサン・シスタームーン」の映画を見て感動し、アッシジの聖フランシスコのように生きたいと強く思いました。その後、桐生市に聖フランシスコ修道院があることを知り、黙想会のベッドメイキングなどを手伝いながら、一週間ほどブラザー達と行動を共にする体験をします。修道士になることも考えましたが、音楽家になる夢だけはどうしても諦めることはできませんでした。

洗礼名は当然聖フランシスコ。妻との結婚式は、桐生の修道院で仲良くしていただいた院長フレビアン神父が、後に六本木のフランシスカン・チャペルセンターの館長となったので、彼の司式で行っていただきました。

ここまで聖フランシスコに傾倒している私がずっと抱き続けた夢が、今年の夏、とうとう叶おうとしています。今、没後800周年(2026年)に向かう記念行事の真っ只中のアッシジの聖フランシスコ聖堂において、私自身の作曲した宗教曲だけで演奏会を開くこと。そのために私はアッシジ祝祭合唱団を結成し、練習を続けてきました。その全ての曲を、アッシジの前には是非日本の皆さんと分かち合いたいと思います。フランシスコ会日本管区の協賛を得て、この国内演奏会が実現するに至って、ただただ感謝です。

三澤洋史

プログラムについて

プレリュード

Prelude

聖フランシスコのふるさと アッシジの街角を吹き抜ける 風の爽やかさよ
鳥たちは 梢から城壁 そして塔へと 嬉々として渡っていく
ウンブリア平野の のどかさの中で いっぱいの光を浴びた花たちが
この世に生まれたしあわせを 謳歌している
ここでは 全てのものの上に 神の輝きが 宿っている

かつてアッシジの街を訪れた時の印象を、私はそのまま単純な詩に綴り、それに作曲して、この曲は一度上演されていますが、今回のアッシジでの演奏会のために、歌詞をイタリア語に翻訳し、演奏会全体のプレリュード(前奏曲)として冒頭に置きました。

イタリア語の3つの祈り

Tre Preghiere in Italiano

1. 主の祈り

Padre Nostro

イエス自身が、私達にどう祈ったら良いか教えてくれた「主の祈り」は完璧な祈りだと思います。まず天上の父なる神に思いを馳せ、それから我々の日常に触れ、罪からの解放を希求します。私は穏やかな曲想で彩ってみました。

2. 聖フランシスコの平和の祈り

Preghiera Semplice

「主の祈り」と対照的に、「平和の祈り」では、私は聖フランシスコの溢れるような情熱を表現してみました。「憎しみあるところには愛を」という言葉を、単にきれいごとで終わらせることなく、世界が本当に平和になるまで、私も全力でこのメッセージを伝えたいと思います。

3. アヴェマリア

Ave Maria

バスの声部には、ラテン語のアヴェマリアが通奏低音のように流れる中、上の声部ではイタリア語でつぶやくように歌われ、同時進行するのが魅力です。中間部では、「今も死を迎えるときも」という言葉にやや切羽詰まった表現を施しました。

被造物の讃歌（太陽の賛歌）

Cantico delle Creature

来年（2025年）は、アッシジでは聖フランシスコが作ったこの稀有なる詩を記念する年となります。神が創造された全ての被造物の素晴らしさをひとつひとつ讃える内容で、「兄弟なる太陽よ」と始まるので「太陽の賛歌」とも呼ばれます。

死に関する記述は本人が死期を悟った時期と一致していると言われていたようですが、どんな時にもポジティブな聖フランシスコの生き方を反映しています。

この曲は、この演奏旅行のために書き下ろしました。詩の素晴らしさに触発され、次々と楽想が湧いてきて、あっという間に出来ました。神に感謝！

平和のためのミサ曲（アッシジ版） Missa pro Pace

ラテン音楽のタッチで、ふざけた曲と思われるかも知れませんが、本人いたって真面目に書いてます。しかも曲の至る所に、平和への想いが込められています。

ミサの中では聖霊の交わりが行われ、究極の一致が行われ、会衆は共にパンを食し、やがて派遣の祝福を受けて再び世に出て行く。平和を作り出す人として・・・。

しかし、世界にはいつまで経っても平和が来ません。とても残念です。とはいえ、私はあきらめることなく、今日もこの「平和のためのミサ曲」を奏でます。

演奏

合唱: アッシジ祝祭合唱団

ピアノ: 三澤志保

エレクトーン: 長谷川幹人

作曲 指揮: 三澤洋史

主催: アッシジ祝祭合唱団

協賛: フランシスコ会日本管区

協力: カトリック田園調布教会



聖フランシスコ像

アッシジ サン・ダミアノ修道院

文と背景写真 三澤洋史



作曲・指揮：三澤洋史

国立音楽大学声楽科を卒業後、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。
2001年9月より新国立劇場で専属の合唱指揮者を務める。現在、首席合唱指揮者。
1999年から2003年まで、パイロイト音楽祭で祝祭合唱団指導スタッフとして従事。
2011年には、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座において、合唱指揮者ブルーノ・カゾーニ氏のもとでスカラ座合唱団の音楽作りを研修。新国立劇場合唱団を世界のトップレベルにまで鍛え上げた。
2017年11月、その業績が評価され、JASRAC音楽文化賞を受賞。合唱団は、2018年度第31回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門、室内楽・合唱部門受賞。



エレクトーン：長谷川幹人

北海道函館市出身。各種コンサートでのソロ演奏はもちろん、ミュージカルやクラシック歌手との共演、和楽器とのコラボレーションなど様々な演奏家とも共演しジャンルを問わず幅広い演奏活動を行っている。BSジャパンのTV番組「エンター・ザミュージック」やTOKYO MXテレビ等、エレクトーン演奏でのテレビ出演も多数。コンサートではほとんどの楽曲の編曲を手がけ、その独創的なアイディアによるアレンジには定評がある。



ピアノ：三澤志保

パリ・エコール・ノルマル・ピアノ科を経て、パリ国立地方音楽院ピアノ科、伴奏科を首席で卒業。フランス各地にて器楽、声楽の伴奏者として様々なコンサートに出演。8年間の留学の後、東京二期会、新国立劇場、びわ湖ホールなどのオペラ公演で稽古ピアニストとして関わる他、リサイタル伴奏、室内楽ピアニストとして活動している。近年では声楽家の為のフランス語指導、研修所等で後進の指導にもあたっている。
現在、二期会研修所、国立音楽大学大学院オペラ科ピアニスト

合唱：アッシジ祝祭合唱団

指揮者であり宗教家である三澤洋史の次の呼びかけにこたえて、私たちは日本の各地から集まりました。
「来年は聖フランチェスコが Cantico delle creature を書いて800周年だ。僕はこの祈りの言葉に感銘を受けて信仰の道に入った。僕の運命を決めたこの詩に作曲するのは僕の運命だ。
みんな、これを歌うためにアッシジに行こう！僕の作曲したMissa pro Paceも歌うぞ」

ソプラノ	市井さゆり 草別道子 多田牧子 平野真奈美	上原いづみ 黒田三千恵 永井寿枝 廣部明美	上原弓子 小島美香子 中澤薫子 古屋美季	川名裕子 酒井純子 中野克代 渡辺信子	神田由貴 島津典枝 橋本千津子
アルト	荒井華子 高山克子 久田玲子 矢内直子	安藤雅子 築館玲子 星崎正代	川村文子 成高恵珍 細倉ゆずる	杉本真佐子 野村美奈子 水谷二三子	清木穂名美 博多信子 村上典子
テノール	青木浩芳 谷口滋美 平野好道	奥村晃史 辻 直浩 藤田兎一郎	賀川静夫 富松太基 古屋英樹	神田豊壽 新岡香織	酒井雅弘 伴野 勤
バス	青木修三 山田 亮	荒川昌夫	滋賀秀實	清木 達	橋詰拓明
作曲・指揮 団内指揮者 ピアニスト 楽事 会計 世話役	三澤洋史 酒井雅弘 三澤志保 酒井雅弘 清木穂名美 清木 達	神田豊壽 水野彰子 新岡香織	矢内直子 中澤薫子 三木蓉子	神田由貴	